

(様式7-2)

会派政務調査活動・先進地調査等 精算書

令和8年3月27日

三田市議会議長 肥後 淳三 様

本会派(私)は、会派政務調査活動・先進地調査に要した費用の精算結果を下記のとおり報告します。

会 派 名	市民とともに		代 表 者	
			議員名	大西 憲司
派遣者氏名	肥後淳三、橋本維文、大西憲司			
視 察 先	① 岡山県真庭市湯原温泉ひまわり館 岡山県真庭市下湯原 24-1 ② 島根県美郷町役場 島根県美郷町粕淵 168 ③ 島根県雲南市役所 島根県雲南市木次町里方 521-1 ④ 島根県出雲市旧出雲市立光中学校 島根県出雲市奥宇菊町 854			
調 査 事 項 (調査目的)	① <u>ジビエカー導入について</u> ② <u>ジビエ肉・骨の活用について</u> ③ <u>地域自主組織について</u> ④ <u>中学校の廃校利用について</u>			
日 時	令和7年8月4日(月)午前9時30分～令和7年8月6日(木)午前11時30分			
支 払 金 内 訳	科 目	支 出 額	摘 要	
	宿泊料	27,000	13,500×2泊	
	日 当	9,000	3,000×3日	
	鉄 道 賃 (モ/レール)			
	航 空 賃			
	バ ス 賃			
	船 賃			
	レンタカー 燃料代 高速料金	16,326	レンタカー 33,660/3=11,220円 燃料費 5,397/3=1,793円 高速代：往路 6,890/3=2,297円 復路 3,050/3=1,016円 11,220+1,793+2,297+1,016=16,326円	
	そ の 他	5,796	手土産 7か所 (17,388/3=5,796円) 市 4か所+ジビエカー管理、事業者 2か所 (ひまわり館、養殖業者)=7か所	
合 計	58,122			
備 考				

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

2026年3月27日

三田市議会議長 肥後 淳三 様

本会派(私)は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	市民とともに	代表者	
		議員名	大西 憲司
派遣者氏名	肥後淳三、大西憲司、橋本維文		
視察先及び調査事項(調査目的)	① 真庭市下湯原温泉ひまわり館 岡山県真庭市下湯原 24-1 ジビエカーの導入について ② 美郷町役場 島根県美郷町粕淵 168 ジビエ肉・骨の活用について ③ 雲南市役所 島根県雲南市木次町里方 521-1 地域自主組織について ④ 旧出雲市立光中学校 島根県出雲市奥宇賀町 854 番 中学校の廃校利用について		
日 時	2025年8月4日(月)～ 2025年8月6日(水)		
視察先対応者	① 真庭市役所 農業振興課長 芦川 徹 様 ジビエカー管理運営会計年度任用職員 2人 議会事務局主査 矢鳴 孝一郎 様 下湯原温泉ひまわり館理事長 池田 公博 様 ② 美郷町役場 美郷バレー課 安田 亮 様 ③ 雲南市議会 副議長 原 祐二 様 雲南市役所 地域振興課 大谷 吾郎 様 議会事務局総務課 武田 智紀 様 ④ 出雲市役所 管財契約課係長 津田淳 様、主査 園山純浩様 昭和開発工業代表取締役 荒木克之 様、 ひかり養殖場場長 山岡麻衣 様		
(調査結果の概要及び所見) 別紙でも可			
・ 視察資料 別添 ・ 調査結果及び所見は、別紙1：真庭市、 別紙2：美郷町市、 別紙3：雲南市 別紙4：出雲市 に添付しています。			

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名(無会派は記入不要)、議員名を記入の上、押印してください。

別紙1 真庭市視察報告

視察先	岡山県真庭市
視察日時	令和7年8月4日 10:00~12:00
視察内容	ジビエカーの導入について

真庭市概要

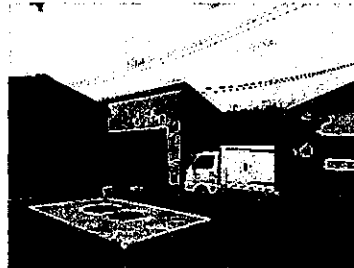
- 人口：約41000人 面積：約828km²（市域の約8割が森林）
- ・2005年9か町村合併により誕生
 - ・バイオマス産業都市指定（2014年） ・SDGs未来都市指定（2018年）
 - ・脱炭素先行地域指定（2022年）

視察内容

- 有害鳥獣対策事業 R6年度：131,662千円
 - ジビエ活用事業（集落支援員設置、ジビエカー運営）・・・18,047千円
 - 有害鳥獣駆除事業（有害捕獲駆除補助金、大型捕獲罟設置支援等）・・・95,973千円
 - 有害鳥獣防護柵設置事業（防護柵設置支援等）・・・17,642千円
- ジビエカー導入事業
 - 導入：平成30年
 - 事業費：27,500千円（国庫：15,125千円、市費：12,375千円（過疎債：12,100千円））
- ジビエカー導入目的
 - 固定の処理施設よりも機動性、コスト面が有利
 - 捕獲個体の埋設、廃棄が不要になり、猟友会員の負担軽減
 - 捕獲数の増加による農林業の被害軽減
 - 迅速な処理による捕獲個体の商品価値の向上
- 運用
 - 捕獲連絡⇒個体確認⇒個体洗浄⇒剥皮⇒内臓摘出⇒枝肉保管⇒搬入
 - ジビエカーでは個体確認から枝肉保管までの一次処理までを実施（一頭あたりの所用時間：15min）
 - ジビエカーの冷蔵室では4~5頭分を保存可能
 - ジビエカーは施設内駐車場奥に固定し、捕獲個体は保冷車で現地に移動して回収
- 運用実績
 - ジビエカー導入前（H30年）のシカの捕獲頭数：270頭
 - ジビエカー導入後のR5年度の捕獲頭数：1226頭（約4.5倍）
 - ジビエカー持ち込み頭数：H31年 72頭 ⇒ R5年 809頭



ジビエカー



保冷車



捕獲個体の処理

所感

ジビエカーの導入により、シカの捕獲頭数は確実に増加しており、成果は如実に表れている。ジビエ活用はもちろんだが、有害鳥獣駆除の中でハンターが大変に苦勞されている、捕獲個体の処理をハンターがしなくてよいこと、補助金含めた手続きが不要になるなど、両者にとって利点があることが素晴らしい取り組みであると感じた。三田市においても、捕獲頭数が少ないことが、ジビエ活用の難しい要因になっているが、真庭市の事例なども参考にしながら、三田市でも導入できるよう引き続き取り組みを進めていきたい。



説明聴講時の様子

別紙2 美郷町視察報告

視察先	島根県美郷町
視察日時	2025年8月5日 9:30～11:30
視察内容	ジビエ肉・骨の活用について

美郷町概要

人口：約4300人 面積：約282km²
・2004年 2町村合併により誕生

視察内容

●おおち山くじら物語

第1章 獣害対策の抜本的改革

狩猟は従来どおりの猟友会、獣害対策の捕獲は行政と住民(農家、狩猟者)が担う

(両方を猟友会だけが担当すると、捕獲方法の違いなど様々な理由により獣害対策の捕獲数が増えない)

第2章 夏イノシシの資源利活用

猟期以外の夏場のイノシシを食肉、ペットフード、皮革製品、家畜飼料などに活用

第3章 地域づくり、コミュニティビジネス

皮革製品の加工を地域で実施、食肉を地域食堂や学校給食に活用

第4章 定住、雇用、ローカルビジネス

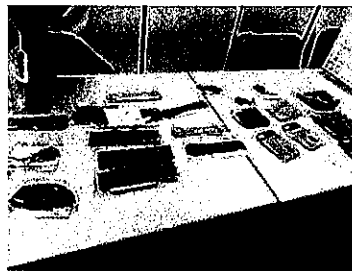
第5章 美郷バレー構想

●美郷バレーの取組経緯

1. R5.10 広島市安佐動物公園にライオンの餌としてシカ肉を提供
2. R6.1 美郷町内飲食店「またたび」 猪鹿鳥定食メニュー発表
3. R6.2 邑智郡森林組合とタイガー(株)、美郷町の3者協定
シカ対策の軸となる新たな体制を構築していくための機能強化
4. R6.4 美郷町内小中学校4校ではじめてシカ肉を給食で提供
5. R6.5 (株)テザックと美郷町の2者でシカやサルなどの野生動物を対象とした獣害対策製品開発
6. R6.6 シカなめし革の利活用
7. R6.8 シカ肉の新たな特産品 美郷もみじ「加工肉」発表



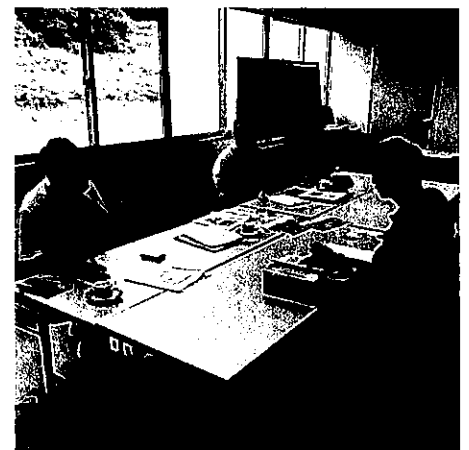
鳥獣被害関連の資料掲示



資源を活用した製品

所感

今回ご説明をいただいた農業振興課の安田さんの鳥獣被害への対応、またそれらを活用したまちの活性化への熱い思いを感じた。被害の軽減を中心にしながらも、資源活用、地域住民主体の経済活動、まちの魅力創出まで費用をかけるのではなく、市行政と住民が一体となり事業全体を進める環境醸成ができており、大いに見習うべきだと感じた。三田市においても鳥獣被害は深刻であり、被害軽減のためには様々な課題がある。今回学んだ、資源の活用や、鳥獣対策の捕獲と狩猟の線引きなど、三田市でも取り組める内容は多く、三田市においても議論を深めていきたい。



説明聴講時の様子

別紙3 雲南市視察報告

視察先	島根県雲南市
視察日時	2025年8月5日 14:30～16:30
視察内容	小規模多機能自治(地域自主組織)の取組みについて

雲南市概要

人口：約36000人 面積：約553km²
 平成16年11月1日、6町村で合併 中山間地域で、全域が過疎指定

視察内容

・「地域崩壊の危機」を「住みよい地域づくり」へ ～新たな地縁モデルの結成～

小規模多機能自治＝地域自主組織(自治会、消防団、営農組織、PTA、高齢者の会など)

※新たな組織ではなく、既存の組織の集合という考え方

目的：地域課題の解決(地域でできることは地域で)

考え方：1世帯1票制ではなく1人1票制

組織の活動拠点：交流センター (公民館を転換)

事務局体制：常勤2名+非常勤数名 ※全て地域自主組織で雇用

行政支援：交流センター指定管理料+地域づくり活動等交付金を支給

地域づくり活動交付金⇒年間約1000万円

地域づくり担当職員等による企画・指導・支援

・地域自主組織の取り組み事例

夏休み小中学生自主学習教室⇒夏休み期間、交流センターで地区内の児童生徒の自主学習を支援
 放課後児童クラブの運営

うしおっ子ランド⇒地域住民による預かり保育

ごはんのじかん⇒豊かな食文化の伝承 (にしめ、ゆず等、プロの技を受け継ぐ)

はたマーケット⇒自主組織による買い物支援

笑んがわ市⇒JA跡地を活用し、産直市と交流サロンを実施

世代間交流施設「ほほえみ」⇒地域自主組織、就労支援A型事業所、訪問看護ステーションが共同運営

高齢者の見まもり・移動支援⇒水道検診事業を受託し、検診と併せて高齢者宅を訪問

福祉カード作成

黄色い旗運動⇒黄色い旗を朝掲げ、夕方に取り込む (安否確認)

配色事業⇒利用会員宅 (高齢者世帯・単身者世帯) に配色

農業の維持(営農組織の連携推進)⇒7つの営農組織を2つの広域組織に集約

どぶろく&田舎料理レストラン運営事業

体験型宿泊施設での交流活動

所感

雲南市が取り組む小規模多機能自治について、目的の明確化、考え方、地域への資金補助、行政職員の関わり方など勉強になる箇所が多くあった。地域課題の解決を組織の目的にかかげ、イベント主体ではなく、地域課題を解決するためにどのような活動が地域内で実施できるのかを行政職員が一緒になって検討しており、三田市におけるまちづくり協議会にも多めに参考になる内容であった。現在の三田市における、まちづくり協議会と地域自主組織の運営も、費用面ではすぐには難しい面があるが、目的の明確化、組織の構成、行政職員の関わり方など反映できると考える。三田市の地域課題の解決に向けて、今回学んだことを少しでも反映できるよう議論を深めていきたい。



雲南市議会 議場にて

別紙4 出雲市視察報告

視察先	島根県出雲市
視察日時	2025年8月6日 10:00～12:00
視察内容	中学校の廃校利用について

出雲市概要

人口：約17,200人 面積：約624km²

視察内容

・旧光中学校における陸上養殖事業実施の経緯

- | | |
|-------------|--|
| 平成27年3月 | 閉校 |
| 令和元年12月 | サウンディング型市場調査(3社参加) |
| 令和2年10月～11月 | 公募により事業者募集 |
| 令和3年1月 | 事業者プレゼンテーション(2社)及び審査会
優先交渉者の決定 |
| 令和3年3月 | 優先交渉者との基本協定書の締結 |
| 令和3年3月～5月 | 地元説明、貸付契約の具体的内容の協議 |
| 令和3年6月 | 市議会に議案提出
議案内容：地方自治法96条第1項第6号の規定により
財産の無償貸付について議決を求めるもの |
| 令和3年7月 | 使用賃借(無償貸付)契約締結(契約期間：R3.7～R6.6) |
| 令和6年5月 | 市議会臨時会に議案提出
議案内容：令和3年6月議会議案と同じ |
| 令和6年7月 | 使用賃借(無償貸付)契約締結(契約期間：R6.7～R9.6) |

・事業概要

場 所：出雲市の旧光（ひかり）中学校の武道場。

事業主体：JR西日本イノベーションズと、地元建設会社の昭和開発工業が100%出資する子会社、株式会社パナムが連携して運営

養殖方法：人工海水を利用した「閉鎖循環式陸上養殖」システムでホンカワハギを育成
この方法により、水温や水質などを年間を通じて安定的に管理することが可能

ブランド名：「ぼちゃかわハギ」としてブランド化

特 徴：徹底した衛生管理のもとで養殖されるため、通常は生食に注意が必要な肝まで安心して食べられるのが特長 濃厚な肝と旨味が広がる白身を楽しむことができる

経緯と成果：2022年1月に稚魚の搬入を開始

2023年3月には初出荷が行われ、出雲市の新たな地域産品として期待されている



説明聴講時の様子



養殖場の説明

所感

閉鎖循環式陸上養殖の取り組みは将来性もあり、山に囲まれた三田市においても面白い取り組みだと感じた。一方で、収益を上げるためには収益が上がるまでの期間が長い、病への対応など、課題も多く、旧光中学校の取り組みも、光中学校卒業生の事業者が地元への思いを持って、事業に取り組んでおり、今後三田市における廃校などの利用に関しても、地元の思いをバックアップしていくことが重要だと感じた。